

漁況予報 い わ し

第220号

【2020年7～8月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、5月は8トンで、前年(52トン)及び平年^{※1}(24トン)を大きく下回りました。また、6月は18トンで、前年(73トン)及び平年(131トン)を大きく下回りました。2か月合計では25トンで、前年(125トン)及び平年(155トン)を大きく下回りました。

相模湾側では、まき網で餌イワシとして断続的に漁獲していました。

なお、早期発生群（前年11～12月生まれ）のヒラゴ（被鱗体長^{※2}8～13cm）が漁獲されはじめました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、5月は24トンで、不漁であった前年(102トン)及び平年(206トン)を大きく下回りました。6月は41トンで、前年(27トン)並みでしたが、平年(462トン)を大きく下回りました。2か月合計では129トンで、前年(163トン)及び平年(637トン)を大きく下回りました。

なお、鴨居地区および佐島地区のまき網では、餌イワシとして断続的に漁獲していました。魚体は、8～11cmの小型成魚主体でした。

【シラス】

5月は相模湾奥での漁場の偏在が強まり、豊漁となる一方、三浦半島周辺の漁場では低調で推移しました。6月に入って三浦半島周辺の漁もやや上向きましたが、好漁は長く続きませんでした。一方、湾奥の漁場では中旬以降の漁はやや減りましたが、近年にない好漁となりました。主体はカタクチイワシで様々なサイズのものが見られました。夏には産卵できそうな未成魚も多いとの情報があり、今後も三浦半島周辺及び湾奥どちらも好調で推移しそうです。

黒潮北上流路の位置が極端に西に偏った3月下旬以降、漁場の偏りは継続しています。この偏りは相模湾内での反時計回りの循環流が原因ではないかと思っています。今後の黒潮流路変動とそれに伴う相模湾内の流況の変化に注目したいと思います。全体漁獲量（標本船データより推定）は、5月は前年および平年を上回り（前年比1.3倍、平年比1.2倍）、6月は前年及び平年を大きく上回りました（前年比3.1倍、平年比1.9倍）。

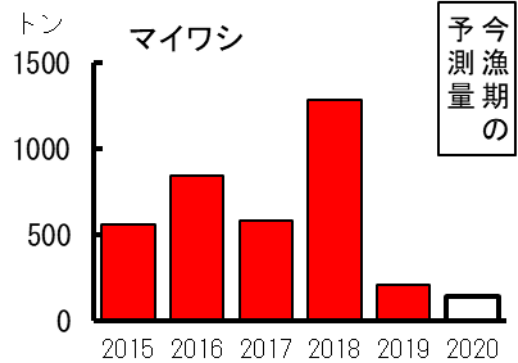
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、2020 年生まれの小羽マイワシ（10～14cm）が主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年(210 トン)及び平年(698 トン)を大きく下回る約 144 トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

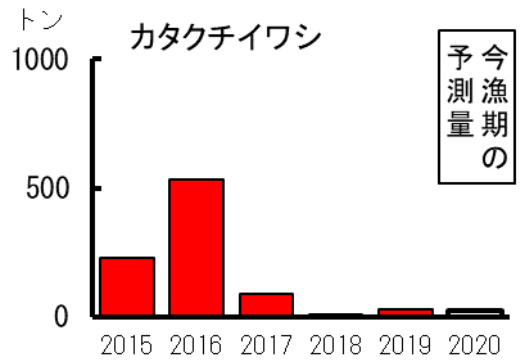


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚量は、著しい不漁であった前年(21 トン)並みとなり、平年(158 トン)を大きく下回る約 26 トンと予測されます。

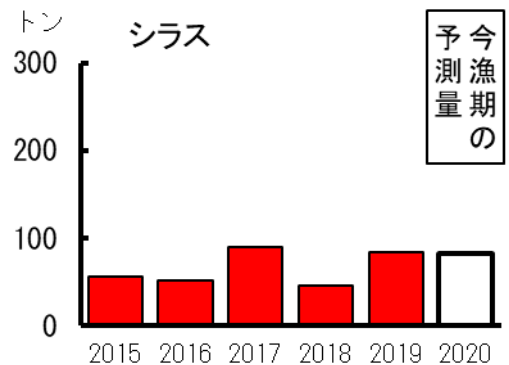


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、6 月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年(84 トン)並み、平年(63 トン)を上回る約 83 トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター 栽培推進部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2314